

# 第57期中間事業報告書

平成14年4月1日から平成14年9月30日まで



DAITO CHEMIX

**r100**

※紙製は率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆由来のインクを使用しています

ダイソーケミックス株式会社

### 企業理念

わたしたちは

「快適でより豊かな社会づくり」  
を合言葉に  
「一步先をゆく、スペシャリティ・  
ファインケミカルメーカー」  
をめざします。

そのために

「グッドマインド」  
「グッドパートナー」  
「グッドテクノ」  
を大切にしてください。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、あたたかいご支援をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

ここに当社の第57期中間期（平成14年4月1日から平成14年9月30日まで）の決算を終了いたしましたので、事業の概況をご報告するにあたりご挨拶申し上げます。

さて、当中間期のわが国経済は、第1四半期の米国経済回復による輸出環境の好転と国内在庫調整の進展など、一部に明るさが見られたものの、雇用環境の悪化による個人消費の低迷、デフレ傾向の進行による民間設備投資の減少など、景気の先行き不透明感が強く、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で当社は、今期を基点とする「再生プラン」をスタートし、営業活動に全力を挙げるとともに、感光性材料・写真材料・医薬中間体の新製品開発に積極的に取り組みました。また引き続き、製造原価の低減、設備投資の削減、経費の削減、購入原料の価格値下げなどに鋭意努力いたしました。一方で、IT関連産業が一時的に回復したこともあり、感光性材料・写真材料の価格下落はあったものの、感光性材料の販売数量の増加により、売上高は大幅に増加いたしました。

この結果、当中間期の売上高は、写真材料・医薬中間体が減少したものの、感光性材料の売上増加が大きく、前年同期比20.9%増の67億20百万円となりました。

利益につきましては、売上高の増加、原料価格の値下げ、経費の削減などにより、経常利益は2億1百万円（前年



代表取締役

村瀬 千弘

同期、経常損失49百万円)となりました。また、中間利益は1億2百万円(前年同期、中間損失31百万円)となりました。

なお、企業活動の基盤整備および環境保護として、全工場で「ISO9002」並びに「ISO14001」を認証取得いたしております。

品目別の状況は次のとおりであります。

#### **[ 感光性材料及び印刷材料 ]**

半導体用感光性材料は、昨年のIT不況を受けて、デバイスメーカーやレジストメーカーの在庫調整が前年度末にかけ進んだことで、期初から、主力のg線・i線対応用材料の売上が大幅に回復いたしました。

エキシマ用材料は、主力のKrF材料の需要が回復したことに加え、新製品開発におきましても、次世代用感光性材料の試作品が増加したことにより、売上が大きく増加いたしました。

液晶用材料は、価格低下の影響はありましたが、各種モニター、家庭用テレビの液晶化の伸びにより、販売数量、売上ともに増加いたしました。

印刷材料は、IT不況が一段落したことにより、価格低下はあったものの販売数量の増加があり、売上は増加いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比76.8%増の31億17百万円となりました。

#### **[ 写真材料及び記録材料 ]**

写真材料は、新製品や汎用品の販売拡大に注力したことにより、新現象方式向け製品が増加いたしました。しかし、デジタルカメラ普及の影響を受け、従来型の写真材料、インスタント写真向け材料が減少したことにより、売上は僅かながら減少いたしました。

記録材料は、ジアソ感熱タイプの感光材の大幅な増加があり、販売数量、売上ともに増加いたしました。写真材

料の売上減少分をカバーするには至りませんでした。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比2.6%減の22億67百万円となりました。

#### **[ 医薬中間体 ]**

医薬中間体は、主力製品の販売数量の減少に加え、市場競争から価格が低下し、売上は減少いたしました。新製品開発は福井工場内の医薬試作工場の稼働により、ほぼ計画どおりの成果を上げましたが、主力製品の売上減少をカバーするには至りませんでした。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比20.9%減の6億71百万円となりました。

#### **[ その他化成品 ]**

染料は、染色加工業の海外移転や繊維加工品の輸入増および競合品との価格競争が激しく、国内は引き続き低調に推移いたしました。輸出も、価格競争が厳しく低調に推移いたしました。

なお、平成15年9月末日をもって染料事業から撤退することを決定し、平成14年8月1日に発表いたしました。

架橋剤は、繊維改質材料の用途が増加したことにより、売上は大幅に増加いたしました。

その他一般化成品は、IT関連品の売上が増加いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比7.4%増の6億63百万円となりました。

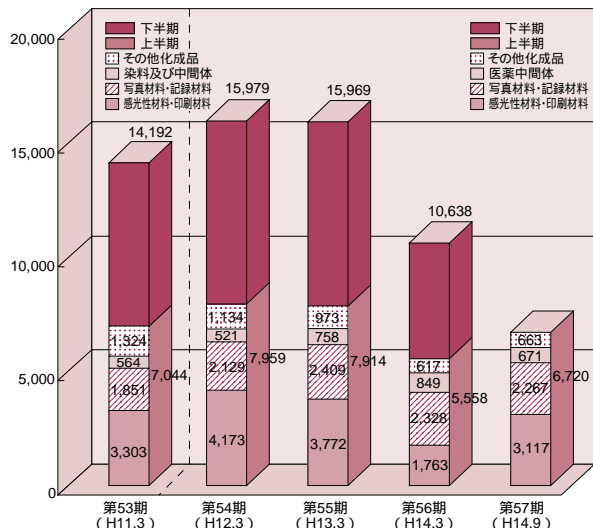
以上、第57期中間期の概要をご報告いたしました。先ほど述べましたように、今期を基点に「再生プラン」をスタートし業績回復に向け、全社一丸となって取り組んでおりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

# 業績の推移と主な経営指標

## 品目別売上高

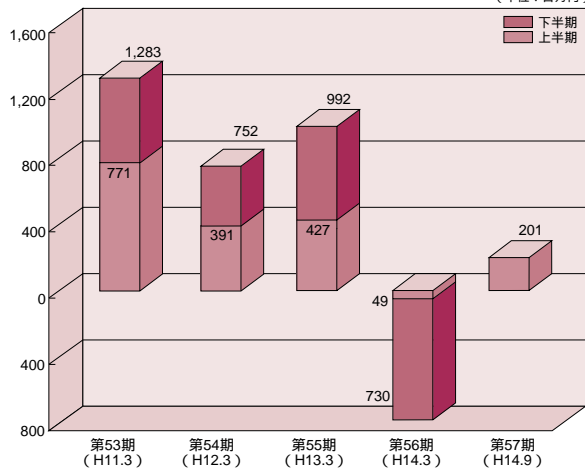
(単位: 百万円)



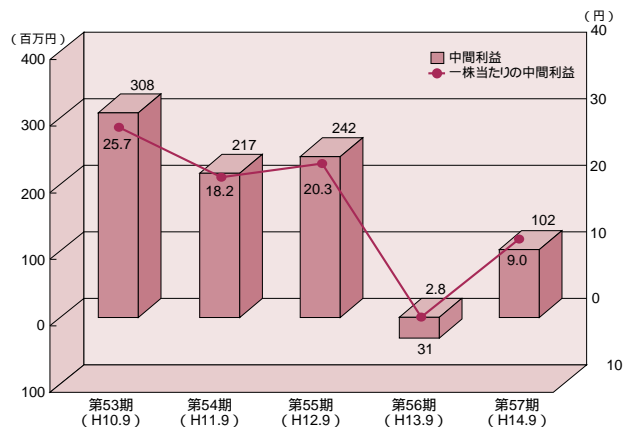
(注)第54期から品目区分を変更し、「その他化成品」に含んでいた「医薬中間体」を独立品目とし、「染料及び中間体」を「その他化成品」に含めることといたしました。

## 経常利益

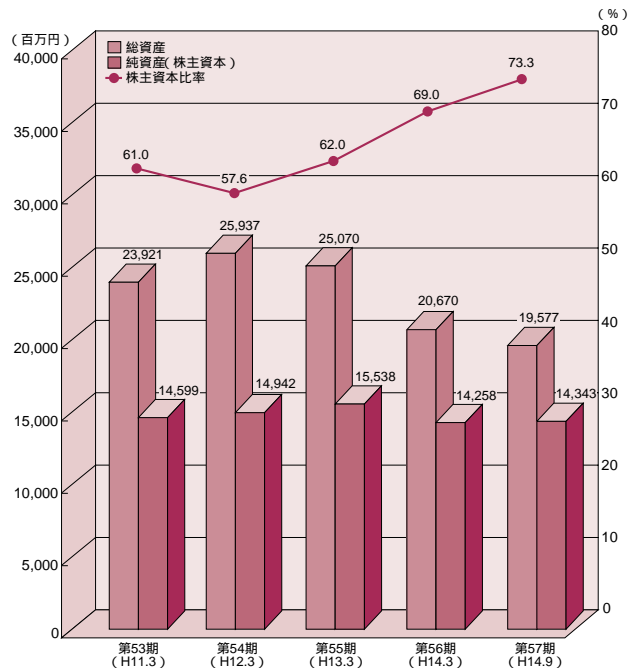
(単位: 百万円)



## 中間利益・一株当たりの中間利益



## 総資産・純資産・株主資本比率



## 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		平成13年9月30日現在	平成14年9月30日現在	平成14年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		( 21,678 )	( 19,577 )	( 20,670 )
<b>流動資産</b>		9,042	8,610	9,133
現金及び預金		1,574	2,569	2,903
受取手形		868	659	740
売掛金		1,319	1,527	1,426
有価証券		1,365	-	-
たな卸資産		3,685	3,367	3,474
繰延税金資産		89	198	179
その他		140	286	410
<b>固定資産</b>		12,635	10,966	11,536
<b>有形固定資産</b>		11,303	9,710	10,207
建物		2,926	2,940	3,087
機械及び装置		3,560	3,092	3,499
土地		2,429	2,427	2,427
建設仮勘定		1,185	223	68
その他		1,201	1,025	1,124
<b>無形固定資産</b>		60	83	93
投資等		1,271	1,173	1,235
<b>資産合計</b>		21,678	19,577	20,670
<b>(負債の部)</b>		( 6,882 )	( 5,234 )	( 6,412 )
<b>流動負債</b>		4,056	2,502	3,128
買掛金		595	685	570
短期借入金		1,493	740	1,461
未払金		1,522	427	554
賞与引当金		227	311	248
その他		218	338	293
<b>固定負債</b>		2,826	2,731	3,283
長期借入金		2,071	2,682	2,777
退職給付引当金		533	-	267
その他		221	49	239
<b>(資本の部)</b>		( 14,795 )	-	( 14,258 )
<b>資本金</b>		2,901	-	2,901
法定準備金		4,666	-	4,666
その他の剰余金		7,573	-	7,150
(うち中間(当期)損失)		( 31 )	-	( 420 )
その他有価証券評価差額金		159	-	88
自己株式		505	-	548
<b>(資本の部)</b>		-	( 14,343 )	-
<b>資本金</b>		-	2,901	-
資本剰余金		-	4,421	-
利益剰余金		-	7,464	-
(うち中間利益)		-	( 102 )	-
その他有価証券評価差額金		-	105	-
自己株式		-	549	-
<b>負債・資本合計</b>		21,678	19,577	20,670

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		自平成13年4月1日 至平成13年9月30日	自平成14年4月1日 至平成14年9月30日	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日
<b>(経常損益の部)</b>				
<b>営業損益の部</b>				
売上高		5,558	6,720	10,638
売上原価		4,779	5,681	9,720
売上総利益		779	1,038	917
販売費及び一般管理費		825	791	1,636
<b>営業利益(損失)</b>		46	246	718
<b>営業外損益の部</b>				
営業外収益		74	63	140
営業外費用		78	108	152
<b>経常利益(損失)</b>		49	201	730
<b>(特別損益の部)</b>				
特別利益		2	3	138
特別損失		5	17	112
税引前中間(当期)利益(損失)		52	188	704
法人税、住民税及び事業税		8	7	16
法人税等調整額		28	78	300
<b>中間(当期)利益(損失)</b>		31	102	420
前期繰越利益		295	278	295
中間配当額		-	-	34
<b>中間(当期)末処分利益(未処理損失)</b>		263	380	160

### 中間貸借対照表 注記

- 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 有形固定資産の減価償却累計額 18,818百万円
- 担保に供している資産
  - 有形固定資産 1,529百万円
  - 投資有価証券 25百万円
- 保証債務残高 2百万円
- 1株当たり中間利益 9円05銭

### 中間損益計算書 注記

記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

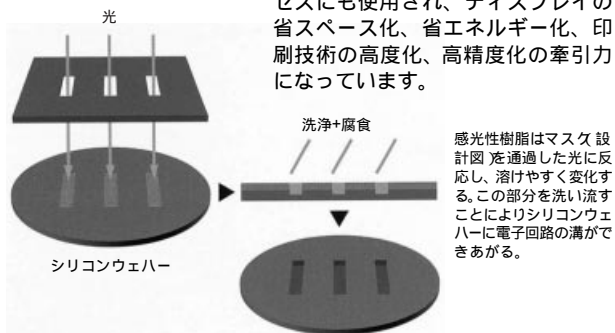
## 製品紹介

### 感光性材料及び印刷材料

半導体製造工程の超微細加工の段階において用いられるのが感光性樹脂です。その感光性樹脂の製造に不可欠な材料として当社の製品が使われており、シリコンウェハーに投影される設計図のパターン映像（光）に反応し、電流が流れる溝を掘る役割をしています。

現在、半導体の高集積化が加速するなかで、汎用IC向け感光性材料はすでに量産体制を整えておりますが、引き続き、最新の高速メモリ、システムLSIや高速CPU向けの次世代用感光性材料の開発と量産体制整備に取り組んでいます。

また、感光性材料は液晶ディスプレイの製作や印刷物の原版作成プロセスにも使用され、ディスプレイの省スペース化、省エネルギー化、印刷技術の高度化、高精度化の牽引力になっています。



感光性樹脂はマスク設計図を通した光に反応し、溶けやすく変化する。この部分を洗い流すことによりシリコンウェハーに電子回路の溝ができあがる。

### 医薬中間体

医薬分野は、感光性材料・写真材料に次ぐ第3の事業の柱として、積極的に育成しています。

平成12年3月、静岡工場にて医薬品製造許可を取得し、医薬中間体から原薬（バルク）までの生産体制を確立いたしました。また、昨年9月福井工場に医薬試作工場が完成いたしました。現在、国内外の大手有力医薬メーカーとの取引拡大を進めており、強力な事業展開を図っています。



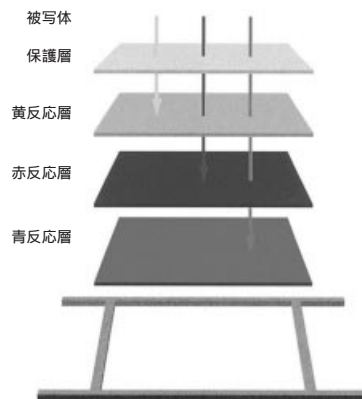
### 写真材料及び記録材料

写真のカラーフィルムにはフィルムベースの上に、光に感応し色を再現するための何層もの薬品が塗布されています。この技術は、インスタント写真やデジタルカラープリンターの材料にも活かされています。大きく分けると、黄、赤、青の3原色に感光する3層。当社の技術が活かされている高性能の写真材料も、この感光層に含まれています。

また、現在、高性能化・環境保護へ対応した映画用フィルムやデジタル医療用レントゲンフィルムの製造にもこの塗布技術が活かされており、当社は、分散型写真材料の量産化技術を導入し対応しています。

さらに、ディスプレイ用材料の供給体制整備に取り組むなどさまざまな分野でも着実に実績を上げています。

記録材料においては、ジアゾコピーの技術を高度に応用した感熱システムに当社の材料が用いられています。



カラーフィルムの感光層は最低3層、実際は高性能化のために補助層を含めて10層以上塗布されている。1層の厚みは、1~2ミクロンである。

## トピックス

### 福井工場第2工場でエキシマ用材料製造

福井工場第2工場内に第1期工事として約3億50百万円の予算で、半導体用感光性材料であるArF・KrFリソグラフィ用のエキシマ樹脂専用設備を導入し、フォトレジスト用樹脂の拡大を図ってまいります。

なお、完成予定は平成15年3月です。

### 静岡工場S-6工場でディスプレイ用材料製造

静岡工場S-6工場内に約2億20百万円の予算で、ディスプレイ用材料の生産ライン増設工事を行っております。

なお、完成予定は平成15年1月末です。

## 染料事業から撤退

当社は、平成14年8月1日に「繊維用途の分散染料およびナフトール染料」の染料事業から撤退することを発表いたしました。

当社の63年の歴史の中で、染料事業は、かつて主力事業として収益に貢献をしておりますが、時代の変遷とともに、低価格化が進んだことに加え、中国等海外に生産シフトがなされ、売上が減少してきておりました。

なお、事業撤退の時期は、平成15年9月30日付であります。

## 会社の概況

(平成14年9月30日現在)

商号	ダイトケミックス株式会社 (英文名：Daito Chemix Corporation)
本社所在地	大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号
設立	昭和24年12月2日
資本金	2,901,163,150円
社員数	306名
主な営業品目	感光性材料、写真材料、医薬中間体、印刷材料、記録材料、染料及び中間体、その他化成品
事業所	東京営業所 東京都中央区日本橋人形町二丁目15番1号 大阪工場 大阪府大東市諸福八丁目3番11号 大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号 静岡工場 静岡県小笠郡大東町浜野3110 福井工場 福井県福井市石橋町31字118



大阪工場



静岡工場



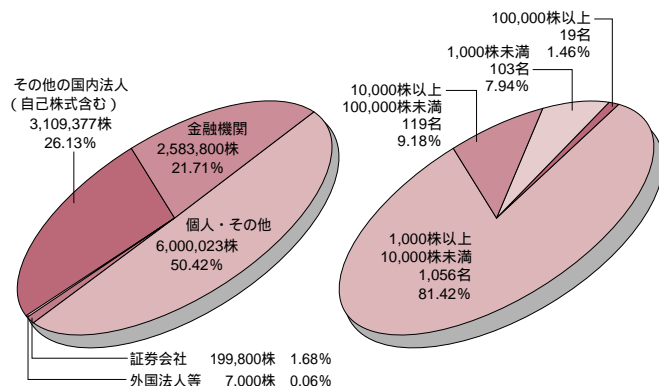
福井工場

## 役員

(平成14年9月30日現在)

取締役	代表取締役	村安	瀬田	千弘	弘稔
取締役	取締役	入岡	岡宮	修一	一士
取締役	取締役	小宮	宮	修一	一士
監査役	常勤監査役	山越	中智	俊彦	彦三
監査役	監査役	桑原	原	賢三	三豊
監査役	執行役員				
執行役員	執行役員社長	村安	瀬田	千弘	弘稔
執行役員	執行役員	入岡	岡宮	修一	一士
執行役員	執行役員	小宮	宮	修一	一士
執行役員	執行役員	内村	村	光俊	則郎
執行役員	執行役員	福二	宮	俊榮	規

## 所有者別 株式分布状況



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会開催時期	6月
株主確定日	
定時株主総会	3月31日
利益配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)	
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 東京証券代行株式会社 TEL: 03 - 3212 - 4611 (代表)
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜三丁目5番29号 東京証券代行株式会社 大阪営業所 TEL: 06 - 6231 - 1347 (代表)
同取次場所	東京証券代行株式会社 本店および 全国各取次所
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 市場第2部
証券コード	4366

## 株式の状況

(平成14年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	47,900,000株
発行済株式の総数	11,900,000株
株主数	1,297名
大株主	

株主名	所有株式数	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
ダイトーケミックス社員持株会	617 千株	5.19 %
株式会社三井住友銀行	578	4.86
東京応化工業株式会社	522	4.39
住友商事株式会社	503	4.23
日本生命保険相互会社	499	4.20
株式会社新生銀行	482	4.05
竹中一雄	475	4.00
富士写真フイルム株式会社	439	3.69
住友生命保険相互会社	342	2.87
農林中央金庫	247	2.08